

常磐每日新聞

日 刊
定額一圓、一ヶ月五圓、三ヶ月十圓、半年二十圓、一年四十圓、郵費在內
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷局

兩頭俱截斷

眞繼 雲 山

時の非を見て、モウこの上は一死、國に報ゆるの外はないと匙を投げた楠正成は、手勢七百を率ゐて湊川に出陣した。逆賊足利尊氏は雲霞の如き十五萬の大軍この戦さ所詮、勝目はなかつたよ、明日は討死といふ建武三年五月廿四日。軍略にかけては日本一の正成も、生死の工夫については尚ほ一点の疑雲が残つてゐたものと見えて、湊川の後方十餘丁の山腹にある廣嚴寺に明極楚俊禪師を訪ふて、最後の心要を叩いた。明極は支那の歸化僧で、後醍醐天皇の即位十一年、勅によつてこの禪刹を創した。開山第一世の傑僧であつた。この問答の場に速記者が立會つてゐた譯でもないから見て來たやうなウソも言へぬが、この一段の物語りは龍門夜話といふ古書に載つてゐるのである。

正成問ふて曰く。
『生死交謝の時如何』
字義としては、生と死との交る刹那は何とござる、といふことになる。
禪師こたへて曰く
『兩頭俱に截斷すれば一劍天に倚つて寒し』これがこの段の肝要である。

兩頭といふのは生死のこゝと、つまり生きるといふことも、死ぬるといふことも二つながら截斷し去ればサア切り捨て、仕うたら何うなるかといふにアトは離言絶慮である、切り捨てればモウ文句はないのだが、それでは話にならぬ、そこで「一劍天に倚つて寒し」とやつた。實に禪機一閃である。兩頭俱截斷は悟境に到るの道を示し、一劍倚天寒は、悟後の一境を示す。ところが正成ほどの傑物も今一息、疑雲を掃ひかねたと見える。
『落處をもさん』と問ひ返へした。一本には『畢竟をもさん』ともあるつまり結局死んだらどうなります。といふやうな話になる。
極、威を揮つて一喝す三十棒を揮つて命がけで、ど

怪我をし
て出血の
多い時は
直ぐ手なら二の腕足なら
太腿を強く縛ることが肝
腎手首や足首では効がな
い
やしつめた。正成、禮拜、
通身汗流る。極、曰く「公
徹せり」と。
三十棒で、正成は豁然大
悟したことになるその大悟
とは如何、これは御同様冷
暖自知するの外ない。私た
ち凡人は、生を終れば死が
あると思ふが生を終れば死
があるのではなく、生死と
もに無いのである。有を掃
へば無があると考へ易いが
有を掃へば有無とも無い
のである。
もう一つ別な言葉でいふ
と迷ひを掃へばそこに悟り
が出て來ると思はれ易いが
迷ひを掃ふたところを假り
明日の献立
【朝】時雨煮—ほつきしぐ
れ煮
【晝】酢びたし—赤貝
いのせんしら
ど 防風 甘酢
【晚】ふくめ煮—芋がら
に悟りといふのであるから
迷ひを掃へば迷悟ともに無
い、如何となれば、悟ると
いふ事實は迷へるものにの
み有り得る出來事で、迷へ
ることなきものには、迷ひ
といふことが無いと同時に
悟りといふこともない。迷
ひといふことは凡夫の專有
物であると共に悟りといふ
言葉も、凡夫の辭典以外に
ある筈はない。
悟つたら佛に成れるとい
ふのは人間のもつ考へかた
で佛に悟りといふ話はない
迷悟ともになさがるやうで
あり、迷悟ともになさが眞



短歌

吉田 甫

山々は朝霧深し静けさを破
りて我汽車はひた走る
傾城の山ふところをひた走
り勿來の驛に汽車は着きた
湖に來ぬひとり泣かんと湖
に來ぬ湖は蒼かり湖に葦あ
り
かの冬のかの言葉なり淋び
しくも尙思ひ止まざり心重
もたし
日に日に夢なき夜は夢作
り世の底の底を彷徨ふ心
春淺き風に聲あり狂ほしく
頭ふりつゝ樹々は太とりぬ
町の友の送りし便り讀みて
あればかすかに町の顛音覺
ゆ
春淺き窓は暖かきかな軒下
に猫は爪とぎてゐたり

通學生用革靴

ボックス編上靴(中等學生用).....5.00ヨリ
同 短 靴(女學生用).....4.50ヨリ
同 サ ン ダ ル(小學生用).....1.00ヨリ
他 ゴ ム 靴 各 種 取 揃 ア リ マ ス

平四丁目 菊地靴店

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

看護婦急派
の求めに應
じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

雛人形道具一式

特價大賣出し

古代並に現代人形特作品豐富富陳
列御客様本位大勉強是非御來覽御
用命を.....

平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

佐藤挽物製作所

各種挽物 丸盆類
木製教育玩具製作
家具附屬品一式

平町十五丁目三十番地
電話(ヤマ)又ハ(カノ)

特約店
いづみや玩具店
森下玩具店
イワキ屋便利店
金太郎玩具店
立花屋商店

阿康藥舖

國製削皮膚病良藥
レメドール
子宮あたゝめぐすり
宮 温 湯
丹波博士創製セキドメ
たんばあめ
靈藥ムテキ

平町古鍛冶町一〇
縣社ノ下 電話四四番

平町民の熱誠

震災義捐千圓突破

既報平町役場で市内各區と協力募集中であつた三陸地方義捐金は昨日を以つて豫定の千圓を突破し總額千七百圓二錢に達したので本日直に震災地に發送する事になつたが各區の募集額は左の如くである

新町長橋	三一、八〇
研古	六五、一〇
紺屋町	二五、六〇
田町	八七、三〇
一丁目	四八、一〇
二丁目	六〇、〇〇
三丁目	四〇、〇〇
四丁目	三五、〇〇
五丁目	五一、五〇
新川町	三〇、〇〇
材木町	二五、二〇
鎌田	三九、〇〇
南町	六七、四五
久保町	二五、〇〇
胡摩澤	三一、六五
北白銀	二六、七〇

仲間町 三六、九二
鎌田 三三、三〇
立町 三七、〇〇
堤内 六、四〇
南白銀 四四、六〇
大工町 一五、〇〇
搔樋小路 七一、七〇
舊城跡 三九、六〇

八幡小路 一六、七〇
月見町 一〇、〇〇
北目 一七、〇〇
搔樋小路火防組五、〇〇
同青年分團 五、〇〇
平機關庫神交會二〇、〇〇
役場吏員一同二二、四〇

縣稅滯納を

遮二無二整理

平縣稅務出張所では年度末に際し目下七年度分の未納整理に全力を擧げて居るが七年度未納額は現在一萬餘圓で前年度未納繰越金を加へると四萬圓近い額になるので四月中には公賣回數を増して整理に當ると

野鼠退治

内郷村總出で

石城郡内郷村農會では最近同村畑地に野鼠被害頗る多いため、對策に就き豫てより郡農會と協議の結果チブ田の花街でドンチャン騒ぎを演じ、酒臭い息を吐き吐き歸る、こんな事が幾度か繰り返されるのだが事業は一寸も進まない、ソロソロ農民達も、不審を抱き始めた、會社へ一應掛け合ひを付けねばならぬと幾人の代表者が選ばれて上京社業の内容を偵察する事になつたが既に其時は遅い、拂込金の大半は林田龜太郎

農民の血涙史 (5)

往時を起想

金儲けの標的視された鮫川水力會社の株式募集は絶讚裡に

悉ち満株となり資本金三百萬圓の四分の一即ち七十五萬圓の第一回拂込みは完了した、灌漑民は先

ス菌を混入せる園子を散布して野鼠にチブスを傳染せしめ弊害を計る事となり明廿六日午前九時より農業者係者總出にて同村の田畑二百五十町歩に散布する事になつた

農倉補助を

競つて申請

勿來と草野が交附決定

石城産業組合部會では農業倉庫増設經營を奨励し殊に政府及び縣では確實な組合倉庫には工費の半額補助を行つて居るので七年度に於いて郡下より平窪、勿來、草野、大野各組合が競つて申請したが七年度の補助交附組合は勿來、草野の兩組合に決したと

暴風雨被害の

漁業復興策成る

小名濱組合から 縣へ資金融通方申請

石城郡小名濱漁業組合では過般總會の決議に依り昨年の暴風雨被害漁業復興資金五萬二千圓の融通方を昨廿四日付を以つて縣に申請したが同組合の漁業復興案は左の如くである

社長の
選舉費用に喰はれて終つて、強硬な掛け合ひもノレンに腕押し同様更らにラチが明かない、代表者の此の報告を聞いて農民達は眼の色を變へた、餘りと云ひば餘りに案に相違した此の仕末に、もう

鮫川江筋

改修工事

起工式延期

既報鮫川江筋組合の總工費三十三萬圓を投ずる改修工事起工式は来る廿七日、八日頃舉行する筈であつたが臨時會其他の關係上期日を

來月上旬に延期する事に決定したと

三等機關士

本縣試験

石城水産會では來月十七日より三週間小名濱水産試験場内で三等機關士受験講習會を催し終了後三日間に亘つて三等機關士試験を執行すると

就學兒童受付

平町各小學校にては本日午前九時より一齊に本年度新入學兒童の受付を開始し人名整理身体検査等を決定したが入學式は四月一日午前九時である

横濱植木會社の

春蒔さ草花種子が

まいました

種子は輸出向きの優良質植木會社の特撰品です

二丁目

西村藥局種子部

(草花種子の蒔き方)小冊子差上ります

是非御利用を

營業時間午後九時迄

平町四丁目河岸通り

三井質店

電話六〇六番

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

白土會の温習

白土會多流素談會にては來る二十六日午後六時より三丁目裏糶古場に於て温習會を開催するが番組は經政札若羽衣羽法師橋辨慶等である

平町人事

出生

△古鍛冶町三九 猪狩荒家 氏六男喜久夫

△大町九 清水等氏二女富子

△堂根一 根本武千代氏二男邦昭

△古鍛冶町三九 猪狩荒家 氏(四〇)石城郡三坂村字堀添五十草野タカ(二六)

△結婚 姻

本縣農林主事補

收容さるる

公印不正使用の 罪状が曝露して

本縣耕地課勤務農林主事補石城、双葉兩郡耕地整理組合管理者木村安三郎(五)は目下平支部に於て豫審中の双葉郡富岡町耕地整理組合長佐藤徳右工門(五)の自白に依り同人の業務上横領事件に關連ある事明らかとなり平區裁判所上田檢事の召喚を受けて取調への結果詐欺、公文書毀棄及び公印不正使用の罪状明白となつたので昨日午後八時荒井豫審判事の拘引狀に依り平刑務所に收容された

鶴見祐輔氏を 講師に招いて

記念大講演會

開いた結果来る五月十日母校創立二十周年記念事業の一つである大講演會には講師として鶴見祐輔氏を招く事に決定交渉中

平各校學級の 受持訓導決定

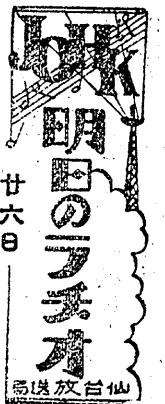
受持訓導決定

平町各小學校にては本日新學年各學級の擔任訓導を左の如く決定した

△第一小學校
(尋常科)一ノ一黒木リヤ
ウ 一ノ二樋口ミヅ 一
ノ三吉成朝重 一ノ四水
竹仁 二ノ一平塚ムメ
二ノ二矢野カネ 二ノ三
八卷陽太郎 二ノ四根本
菊義 三ノ一玉手祥子
三ノ二坂内キノ 三ノ三

横田瀧藏 三ノ四杉本正
治 四ノ一井上佳都美
四ノ二藤田力 四ノ三中
村忠榮 五ノ一鈴木康
五ノ二米本富藏 五ノ三
大谷徹 五ノ四古川秀夫
六ノ一丸丸莊之助 六ノ
二松本政夫 六ノ三根本
榮雄(高等科)一ノ一瓜田
壽 一ノ二大和田祐之
二ノ一坂内伊貞 二ノ二
上川恒平△第二小學校

(尋常科)一ノ一橋本キシ
三加治コト 一ノ四志賀
ナカ 二ノ一先崎清 二
ノ二鈴木トク 二ノ三海
老原英 二ノ四木村ヒテ
三ノ一小松政一 三ノ二
蛭田イサ 三ノ三根本ツ
ナ 三ノ四山森タマ 四
ノ一渡邊啓二 四ノ二熊
谷保高 四ノ三吉田春藏
四ノ四新任 五ノ一野原
忠見 五ノ二鈴木寛 五
ノ三新任 六ノ一佐藤信
義 六ノ二大須賀百世 六
ノ三米本實(高等科)一ノ
一金澤邦男 一ノ二松本
清見 一ノ三新任 二ノ
一草野幸司 二ノ二仲村
操 二ノ三荒忍△第三小
學校(尋常科)一ノ一渡邊
タイ 一ノ二新家芳美
一ノ三花澤武夫 二ノ一



明日のラジオ
廿六日
今夜は北西の風晴
明日は南西の風晴

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
物語黄色い蓋小川紅二
郎仲泰指揮栗原重一
後七、三〇 講演一電氣デ
ーに際して「通信大臣南
弘
後八、〇〇 ラヂオ歌舞伎
「初らくら」吉典座

明日の部

前九、一〇 榮養料理「鯛
の醬油野菜煮付」榮養研

今晚水道が断水

但し鉄道以北だけ

平町水道部では今晚午後九時より明廿六日午前十時迄大工町踏切地内の水道鐵管埋設工事を行ふ爲め同踏切以北の仲間町、番匠町方部の水道は前記時間中断水する

平裁判たより

石城郡小名濱町宇橋本八番地自動車運轉手小野善助(七)は去月二十六日午後十時半頃同町字上町料理店小名濱會館に於て飲酒中同町相澤慶次郎及び鈴木麟三と口論の末鐵棒を以て同人等を毆打し水々負傷せしめ傷害罪として罰金二十圓

同郡上遠野村大字深山田字新部前七十二番地農生田目虎松(七)は無免許にて去る一月頃同村地内に於て括畷を使用の兎一匹を捕獲し狩獵法違反として罰金二十圓に本日各平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

茨城縣南中郷村生れ目下

△雑役 十八才 尋卒 年七十圓位(小名濱町某)

△自動車助手 二十才前後 高卒 月五圓位(江名町某)

△小商店員 十六才 高卒 仕着小遣(四倉町某)

△洋服工見習 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)

△回職をる方求め

△鍛冶工 二十六才 尋卒 給料面談(平町某)

△測量師 二十七才 高等工業二年修 給料面談(平町某)

△女中 十六才 高卒 給料面談(内郷村某)

△機械工見習 十五才 高卒 給料面談(内郷村某)

△時計工見習 十六才 高卒 給料面談(好間村某)

樂屋に忍入り 衣裳類を盗む

前科三犯の賊

三ヶ村荒しを自白

石城郡湯本町宇湯本生れ當時住所不定窃盜前科三犯赤坂幸一(三)は廿四日午後十一時頃湯本町字天王崎地内を徘徊中密行中の平署員に檢舉されたが同人は去月廿二日午前四時頃同町湯本座に開演中の市川玉之助一座の樂屋に忍入り俳優中村鶴之助の衣類數点時價十圓餘を窃取逃走せる外湯本、玉川、内郷等を荒した旨自白したので目下餘罪取調中である

外語入試合格

中學校本年度卒業生小名濱佐川浩平、江名遠藤六郎、平眞根井孝門の三君は此程東京外國語學校の入學試験に合格したと

正木校長講演

高等女學校校長正木貞二郎氏は本日午後一時より開催された茨城縣大津町女子青年團總會に於て講演の爲め出

音講講習申込

磐中音楽部主催石城双葉兩教育會後援の小學校教員音楽及び遊戯講習會は明日より三日間平第二小學校講堂に於て開催されるが本日迄の申込み會員は二百名に近いと

勿來信用總會

石城郡勿來信用組合總會は来る廿八日午後一時より窪田劇

究所
前九、三〇 子供の時間
お話し「簡単な電話機」本
間清人
前一〇、〇〇 宗教講話
「日撃して道存す」臨濟寺
派南禪寺派管長大僧正赤井
義勇
前一一、〇〇 講演
前一二、〇〇 講演「旅順
港閉塞の軍神廣瀬中佐の
偉勳」海軍少將 有馬寛
後一三、〇〇 満洲より
後一四、〇〇 「野球實況漫
談」隅田公園野球場より
中継オール歌舞伎並オー

ル新派チーム出場 解説
柳家金語樓 榎本健一
西村樂天
後六、〇〇 講演
後六、二五 講演
後七、三〇 「子供の夕」獨
唱と合唱 神戸女學院生
徒(少年講話、川中島合
戦) 竹下春廣(ピアノ獨
奏) 松隈京子 松隈陽子
(童話劇、ピノチオ)新童
話劇場(管絃樂)東京ラヂ
オオーケストラ 指揮
瀬戸口藤吉

崇徳新剣書

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫
佐々木 見山

第二百九十九席

兩名賭勝負に敗れる
山本克己は松崎采女と渡邊金彌に向ひ

山「此處で劍術の試合をして各々が拙者を打込んだならば二頭の馬をお戻し申すであらう、若し打負たる節は金子五百兩持参して馬を引いて戻るが宜しい、何うだ試合を致す勇氣が御座るか」

と云はれて松崎も渡邊もハツタと怒つた

松「望みに任せこれにて勝負を争ふ事に致す」

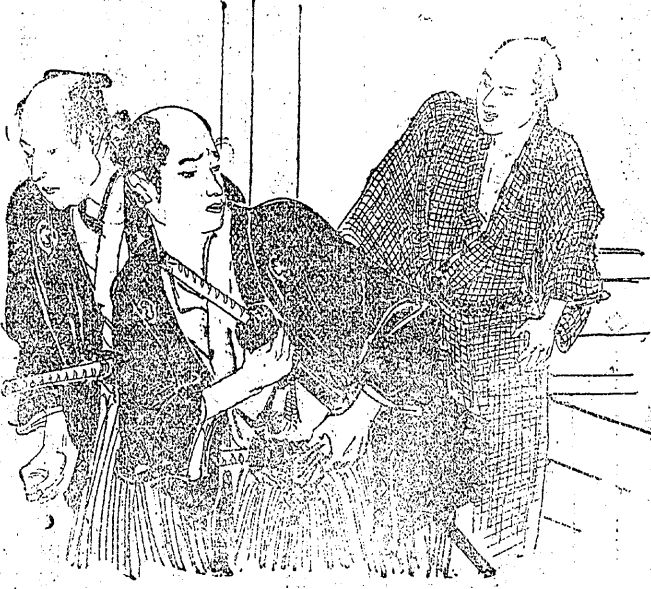
山「ハ、ア立合ふかそれはえらい、女の爲に馬を取られるヒヨロ／＼武士、刀を抜くすべし知るまいと存じたが立合ふといふならば相手をして遣る、シテ各々の劍法の流儀は」

松「四天流で御座る」

山「四天流、ウンそれは二刀だナ、宮本武藏の工夫致した神免二刀流から出でたものとか、一刀すら自由に使へぬものが二刀を使ふとは、おこがましき事だ、そこでおことわり申して置くが、打負たならば五百兩持参なさい、勝を得たる節は直に馬を引渡す」

松「承知致したお支度」

山「こちらへ來さッしやさい」
二人を案内したは道場、棟の高い造りそれには綱が渡してある、小きんに小乗が此處で綱渡りの稽古をする又この道場の後は馬場が出る



來てゐるそこでは馬の稽古をする
山「道具を付けなさい竹刀はそれにある」
松「御免を蒙る」
茲で二人は道具を付け竹刀を取つた、山本克己も支度してそれへ進み寄る、

しぎくれんと左右から詰寄つた、一人が竹刀を二本づつ持つてゐるから以上四本それをズバリと突出してヒタ／＼と進み寄る、山本克己は左右に目を配り、山「さあしつかり打つて参れ俺に勝て、か」

のろへ入つて來たは小乗の情夫おかめの金太といふ無頼漢
金「山本さんこの方を相手に勝負をするかね」
山「ウム俺が負ければ馬を二頭只取られてしまふ、勝てば五百兩になる茲千番に一番のかね合だ」
金「そいつは多きな勝負だな、しつかりやんねえ」
山「まさか此奴等に負けるやうな事もあるめえ、ソレ二人一緒に打つて來い」
飛び下がつてビタリと青眼に構へた、松崎采女に渡邊金彌は山本克己の傲慢なをにくみその高慢の鼻をひ

と罵られて不埒なり此奴と左右から打込んで來た、山本はヒラリと體を轉じ二人に空を打たして置いて躍り込む、五本の竹刀が繩のやうにからみついた、其内に松崎采女はアツとさげふとドーとなふれた續いて渡邊金彌は竹刀を打落されくやしきまされに飛びつくと山本はバツと飛びささりサツと金彌の足を拂つた、ドツサリと音を立て渡邊は打たふれた、山本克己は二人を見てゐたが
山「どうだナ俺の腕がわかつたか」
松「ウム、さても残念」と云ひながら松崎はやう／＼起き上り道具を脱つてウーンとうなつてゐる、渡邊金彌は足をさすり身を起し怨めしあうに山本をみつめてゐる
山「勝敗はわかつたであらう、先づ俺が勝た、勝て見ると馬を引渡すことはならぬ五百兩持つて取りに参れ」
松「残念至極」
山「さあ、もう用事はあまるまい、戻れ、五百兩は三日の中に持参しろ」
云ふとこの試合を見ておたおたの金太が松崎と渡邊に對ひ
金「さあ、歸つた、な」といふ面をするんだ五百兩持つて來て馬を貰つて行くがよい金さへ持つてくればおたおたに濟むんだ、さア歸んねえ」
と急立てられ二人は衣類を着直し大小を掴み腰にし山本での住宅を出たが

松「渡邊これはるらひ事になつた」
渡「事件はます／＼大きくなつたナ、それにしても彼奴は出来るな、我々二人を小兒の如く扱ひ居つた」
松「この上は五百兩持参いたさねば乗馬は戻すまい」
渡「さうだナ、貴殿や拙者の身分にてはとも五百兩は出來まい、と云つて乗馬を取られた事が知れては我々の身分にかはる、軽くはまるつて永のお暇、重くは切腹家名改易今どうしてこの苦痛をのがれたものか」
と二人はしほ／＼として邸に戻つて來た

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
菓子 壺
菓子 食器
其他 各種
製造 賣販

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

一册の代金で
御希望通りな
五册の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
申込次第(規則書送呈)

市原醫院
平町 田町
電話一四四番

安齊外科醫院
平町 田町
電話四七五番

雛人形雜道具 特價賣出し
久月特製おぼこ人形や古代風人形類を陳列致しました。どうぞ御一覽下さい。御待して居ります。
平三丁目
金太郎玩具店

新通學生用品
ランドセル
總皮 七十五錢
學修院型 一圓二十錢
四圓

用品
學生用品
防水
カバン
トナ

豐富陳列
弊店が責任を持つておすすめる
一粒選りの格安品取揃

ヤルツ
〇四一電